「仏の願いが私の願い」

●「物理的な接触と心の接触」

「エレベーター　触れずにピッ　コロナで脚光」

という新聞記事がありました。
ボタンに触れずに目的階に行けるエレベーターを、ある会社が開発し始めたのは、新型コロナウイルス感染拡大前の2016年でした。
その当時は食品工場などへの設置を想定していましたが、今や衛生的で好評だ、という報道でした。
物理的な接触は極力避けて効率よく過ごしたい。そんな理屈で判断するあり方が、私たちの生活に浸透しているように思いました。ところで、心の接触はどうだろうかと、あらためて自分のありようを考えるきっかけになりました。
以前、エレベーターに駆けつけた私の目の前で、閉まりかけた扉が開いて乗ることできました。中の人がボタンを押して開けてくれていて、とても温かな心になったのです。しかし、この頃、私はできるだけエレベーター内で人と接触したくないと判断する心になっていました。

●解学と行学～理屈の学び･いのちの学び

仏教の学び方には、解学（げがく）と行学（ぎょうがく）の二本柱があるといいます。
解学とは、教えを理論的に、客観的な立場で学ぶことで、さまざまな史実や現代の学問の方法を用いて、誰もが納得できる表現で明らかにしていくことです。
行学とは、釈尊や開祖の教えに基づく「さとり」や信心を体得することを目指して、教えを主体的に学ぶことで、そのために自分の身をもって実践し実感していくことです。
善導大師に「経の教えは鏡のごとし」という表現があります。仏さまの教え、お念仏を本当に学ぶのは、鏡に向き合うようなものだというのです。この喩（たと）えは、解学と行学を説明するのに、とても分かりやすいと思います。
私が、あなたから「鏡を見てご覧なさい」と言われた時を考えてください。
鏡と向き合った私が、「大きさは何㎝、重さは何kg、材料は何で、値段はいくらだ」と分析、判断することはできます。でも、こうした客観的な学びは、鏡のことを人に伝えるには大切なことでも、あなたの問いかけには答えていません。
しかし、「髪や身なりが乱れていたな」と自分の姿を映しだす鏡の用途、その用（はたら）きにであったならば、「教えて頂いたな」と、暮らしの中で鏡の役目が生きています。
同じように、お経の教えにであいながらも、自分のありようが見えてこないのなら、その学び方を見失っていることになります。これが教えを身をもって学ぶということです。

●自分のため、人のため

世の中は日進月歩で様々な技術や工夫が生まれ、人びとは、それらを利用して自分の思いを効率よく満たそうとしています。しかし、国連開発計画（UNDP）は、世界の7人に6人以上が不安を感じながら生活していると発表しました。経済成長のみを追い求めてきた結果、社会格差が拡大し、地球環境への負荷も高まっていることが背景にあるとして、人間や環境に配慮した持続可能な開発モデルが必要だと訴えています。
教えに出遇った者には、そうした損得や勝ち負けという客観的で平面的な見方を超えた生き方が気になります。
浄土真宗のお寺に生まれた永六輔（1933～2016）さんは、

> アミダさまは、誰かを救うことで自分も救われることを根本の願いにされるお方。
> ナムアミダブツとは、その願いを信じます、付いていきます、その生き方が好きだということ。今風に言えば、ボランティアをするということ。
> それは人に押し付けるのでなく、お陰さまでやらさせていただくということ。

といいます。
ボタンも触らず私だけがエレベーターで目的地に行くことも魅力的に感じてしまいますが、他の人も一緒に願いが満たされる生き方をしたいと思います。
仏さまの願いに生きる教えには、卒業ということがないとつくづく思います。

資料
●朝日新聞、2023年2月4日付夕刊
●信楽峻麿（しがらきたかまろ）、『教行証文類講義』第5巻137頁
●共同通信、2023年2月8日、14時01分配信
【ニューヨーク共同】国連開発計画（UNDP）は8日、世界の7人に6人以上が不安を感じながら生活しているとの報告書を発表した。経済成長だけを追い求めてきた結果、社会格差が拡大し、地球環境への負荷も高まっていることが背景にあるとして、人間や環境に配慮した持続可能な開発モデルが必要だと訴えた。
●『NHKラジオ深夜便』、1997年、NHKCD

合掌
万行寺第十八世住職　釋靜芳（本多 靜芳）

※ご縁のあったあなた！　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか？　お待ちしてます（会費はいずれも資料･茶菓代として千円です）。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。